

... 概況 ...

概

... 概況 ...

... 概況 ...

... 概況 ...

況

... 概況 ...

... 概況 ...

概 況

1 取扱高

(1) 総取扱高

平成7年中における東京都中央卸売市場花き部の開場日数は、北足立市場308日、大田市場308日、板橋市場256日、平成7年4月14日開場の葛西市場は222日で、前年より北足立市場と大田市場は9日増加、板橋市場は増減なしとなった。総取扱実績は数量は、部類によって単位が違うので算出できないが、金額は720億3340万4千円を示した。この金額を前年と比較すると14.9%(93億3730万3千円)の増加となった。また、1日当たりの取扱高についてみると金額は、2億4978万6千円で前年と比較すると15.6%(3374万2千円)の増加という実績を示した。

(2) 部類別取扱高

- ①切花 総取扱数量は7億4651万2千本、金額は482億7930万8千円となり、前年と比べると数量は12.5%(8314万4千本)、金額は12.5%(53億6685万9千円)の増加となった。平均価格は65円。
- ②切葉 総取扱数量は5322万8千枚、金額は15億1120万1千円となり、前年と比べると数量は17.9%(808万3千枚)、金額は16.6%(2億1485万8千円)の増加となった。平均価格は28円。
- ③切枝 総取扱数量は1496万4千束、金額は34億4292万1千円となり、前年と比べると数量は16.4%(211万束)、金額は10.5%(3億2775万4千円)の増加となった。平均価格は230円。
- ④鉢花 総取扱数量は2024万7千鉢、金額は69億9736万6千円となり、前年と比べると数量は25.6%(412万5千鉢)、金額は26.1%(14億5027万2千円)の増加となった。平均価格は346円。
- ⑤らん鉢 総取扱数量は175万6千鉢、金額は40億3188万3千円となり、前年と比べると数量は16.0%(24万2千鉢)、金額は17.6%(6億234万2千円)の増加となった。平均価格は2296円。
- ⑥観葉植物 総取扱数量は772万5千鉢、金額は43億2379万7千円となり、前年と比べると数量は17.2%(113万3千鉢)、金額は15.5%(5億8132万4千円)の増加となった。平均価格は560円。
- ⑦観賞樹 総取扱数量は234万8千鉢、金額は13億2750万2千円となり、前年と比べると数量は13.2%(27万3千鉢)、金額は20.9%(2億2992万2千円)の増加となった。平均価格は565円。
- ⑧苗物 総取扱数量は132万8千箱、金額は17億2246万7千円となり、前年と比べると数量は48.9%(43万6千箱)、金額は40.1%(4億9296万6千円)の増加となった。平均価格は1297円。
- ⑨その他花き 総取扱数量は21万箱、金額は3億9695万9千円となり、前年と比べると数量は34.4%(5万4千箱)の増加、金額は21.8%(7100万8千円)の増加となった。平均価格は1886円。

(3) 市場別取扱高

①北足立市場

総取扱金額は、136億9851万2千円で前年と比べると1.2%(1億5758万8千円)の増加となった。類別にみると切花の数量は1億4435万本で前年比0.7%(102万9千本)の減少、金額は93億9070万2千円で前年比1.9%(1億7465万1千円)の増加となった。平均価格は65円。切葉の数量は1098万6千枚で前年比2.2%(23万4千枚)の増加、金額は3億1367万5

千円で前年比3.2%(1033万6千円)の減少となった。平均価格は29円。切枝の数量は、399万束で前年比0.8%(3万4千束)の減少、金額は7億2280万5千円で前年比2.3%(1696万8千円)の減少となった。平均価格は181円。鉢花の数量は382万9千鉢で前年比2.6%(9万6千鉢)、金額は13億6586万1千円で前年比3.3%(4362万1千円)で、共に増加した。平均価格は357円。らん鉢の数量は37万4千鉢で前年比3.0%(1万2千鉢)の減少、金額は7億9093万7千円で前年比0.1%(56万6千円)の減少となった。平均価格は2117円。観葉植物の数量は107万9千鉢で前年比4.7%(5万3千鉢)の減少、金額は5億6361万4千円で前年比4.8%(2871万6千円)の減少となった。平均価格は522円。観賞樹の数量は47万鉢で前年比4.7%(2万3千鉢)、金額は2億6163万円で前年比0.02%(5万5千円)で、共に減少した。平均価格は556円。苗物の数量は20万7千箱で前年比15.5%(2万8千箱)の増加、金額は2億4752万8千円で前年比0.1%(26万8千円)の減少となった。平均価格は1197円。その他花きの数量は4万7千箱で前年比35.8%(2万6千箱)の減少、金額は4176万円で前年比8.3%(377万6千円)で減少となった。平均価格は897円。

②大田市場

総取扱金額は、400億1910万1千円で前年比5.8%(21億8116万1千円)の増加となった。類別にみると切花の数量は3億7586万2千本で前年比4.0%(1437万1千本)、金額は251億9875万7千円で前年比4.4%(10億5409万1千円)で、共に増加した。平均価格は67円。切葉の数量は2608万5千枚で前年比6.6%(161万6千枚)、金額は8億330万6千円で前年比8.7%(6440万1千円)で、共に増加した。平均価格は31円。切枝の数量は642万7千束で前年比9.7%(56万9千束)、金額は18億3945万9千円で前年比5.9%(1億296万2千円)で、共に増加した。平均価格は286円。鉢花の数量は1216万鉢で前年比7.2%(81万7千鉢)、金額は41億5232万4千円で前年比7.3%(2億8115万9千円)で、共に増加した。平均価格は341円。らん鉢の数量は111万6千鉢で前年比6.6%(6万9千鉢)、金額は25億7443万6千円で前年比7.4%(1億7709万3千円)で、共に増加した。平均価格は2306円。観葉植物の数量は557万9千鉢で前年比7.5%(38万9千鉢)、金額は31億9772万円で前年比6.5%(1億9481万1千円)で、共に増加した。平均価格は573円。観賞樹の数量は152万2千鉢で前年比0.8%(1万1千鉢)、金額は8億4319万4千円で前年比6.7%(5281万8千円)で、共に増加した。平均価格は554円。苗物の数量は91万8千箱で前年比33.8%(23万2千箱)、金額は12億643万2千円で前年比27.1%(2億5714万9千円)で、共に増加した。平均価格は1315円。その他花きの数量は5万4千箱で前年比25.6%(1万8千箱)、金額は2億347万2千円で前年比1.6%(332万3千円)で、共に減少した。平均価格は3798円。

③板橋市場

総取扱金額は、119億1027万7千円で前年比5.2%(5億9304万円)の増加となった。類別にみると切花の数量は1億6187万本で前年比3.4%(537万1千本)、金額は99億6818万9千円で前年比4.4%(4億1645万6千円)で、共に増加した。平均価格は62円。切葉の数量は1056万6千枚で前年比6.5%(64万3千枚)、金額は2億5573万9千円で前年比9.6%(223万2千円)で、共に増加した。平均価格は24円。切枝の数量は355万6

千束で前年比19.6%(58万4千束)、金額は6億6279万4千円で前年比3.7%(2389万6千円)で、共に増加した。平均価格は186円。鉢花の数量は135万8千鉢で前年比29.8%(31万2千鉢)、金額は4億4997万7千円で前年比27.2%(9628万8千円)で、共に増加した。平均価格は331円。らん鉢の数量は7万9千鉢で前年比3.4%(3千鉢)の減少、金額は2億4520万6千円で前年比1.9%(451万2千円)の増加となった。平均価格は312.2円。観葉植物の数量は29万8千鉢で前年比10.9%(2万9千円)、金額は1億6188万9千円で前年比10.0%(1465万4千円)で、共に増加した。平均価格は543円。観賞樹の数量は6万3千鉢で前年比11.1%(8千鉢)、金額は4359万9千円で前年比4.2%(191万9千円)で、共に減少した。平均価格は688円。苗物の数量は4万2千箱で前年比57.4%(1万5千箱)、金額は5323万5千円で前年比64.2%(2081万1千円)で、共に増加した。平均価格は1259円。その他花きの数量は1万1千箱で前年比6.2%(747箱)、金額は6964万9千円で前年比5.4%(397万1千円)で、共に減少した。平均価格は6120円。

④ 葛西市場

総取扱金額は、64億551万5千円であった。類別にみると、切花の数量は6443万1千本で、金額は37億2166万1千円。平均価格は58円。切葉の数量は559万枚で、金額は1億3848万1千円となった。平均価格は25円。切枝の数量は99万1千束で、金額は2億1786万4千円。平均価格は220円。鉢花の数量は290万鉢で、金額は10億2920万4千円となった。平均価格は355円。らん鉢の数量は18万7千鉢で、金額は4億2130万3千円。平均価格は2250円。観葉植物の数量は76万8千鉢で、金額は4億57万4千円。平均価格は521円。観賞樹の数量は29万3千鉢で、金額は1億7907万8千円となった。平均価格は612円。苗物の数量は16万1千箱で、金額は2億1527万3千円。平均価格は1337円。その他花きの数量は9万9千箱で、金額は8207万8千円。平均価格は829円。

(4) 卸売業者別取扱高

① (株)第一花き

総取扱金額は、102億3648万5千円で前年比3.0%(3億248万3千円)の増加となった。類別にみると、切花の数量は1億958万7千本で前年比2.3%(250万5千本)、金額は74億9639万円で前年比4.3%(3億1079万1千円)で、共に増加した。平均価格は68円。切葉の数量は800万2千枚で前年比5.9%(44万4千枚)、金額は2億3733万5千円で前年比0.4%(105万5千円)で、共に増加した。平均価格は30円。切枝の数量は243万7千束で前年比5.2%(13万3千束)、金額は5億2298万6千円で前年比2.7%(1437万6千円)で共に減少となった。平均価格は215円。鉢花の数量は221万9千鉢で前年比0.9%(1万9千鉢)、金額は8億4994万3千円で前年比6.0%(4779万6千円)で共に増加した。平均価格は383円。らん鉢の数量は19万6千鉢で前年比6.8%(1万4千鉢)、金額は4億7426万3千円で前年比4.0%(1970万2千円)で、共に減少した。平均価格は2415円。観葉植物の数量は59万2千鉢で前年比7.0%(4万4千鉢)、金額は2億9112万2千円で前年比5.3%(1627万7千円)で、共に減少した。平均価格は492円。観賞樹の数量は28万3千鉢で前年比9.5%(3万鉢)、金額は1億6243万8千円で前年比6.0%(1034万4千円)で、共に減少した。平均価

格は574円。苗物の数量は13万9千箱で前年比17.5%(2万1千箱)、金額は1億6438万5千円で前年比4.2%(663万円)で、共に増加した。平均価格は1185円。その他花きの数量は2万9千箱で前年比53.2%(3万3千箱)、金額は3762万3千円で前年比7.6%(309万円)で、共に減少した。平均価格は1316円。

② (株)東京花き

総取扱金額は、34億6202万7千円で前年比4.0%(1億4489万5千円)の減少となった。類別にみると切花の数量は3476万3千本で前年比9.2%(353万4千本)、金額は18億9431万2千円で前年比6.7%(1億3614万円)で、共に減少した。平均価格は54円。切葉の数量は298万4千枚で前年比6.6%(21万枚)、金額は7634万円で前年比13.0%(1139万円)で、共に減少した。平均価格は26円。切枝の数量は155万3千束で前年比6.8%(9万9千束)の増加、金額は1億9981万9千円で前年比1.3%(259万2千円)の減少となった。平均価格は129円。鉢花の数量は160万9千鉢で前年比5.0%(7万7千鉢)の増加、金額は5億1591万8千円で前年比0.8%(417万5千円)の減少となった。平均価格は321円。らん鉢の数量は17万7千鉢で前年比1.6%(3千鉢)、金額は3億1667万4千円で前年比6.4%(1913万6千円)で、共に増加した。平均価格は1787円。観葉植物の数量は48万7千鉢で前年比1.9%(9千鉢)、金額は2億7249万2千円で前年比4.4%(1243万9千円)で、共に減少した。平均価格は559円。観賞樹の数量は18万7千鉢で前年比3.6%(6千鉢)、金額は9919万3千円で前年比11.6%(1029万円)で、共に増加した。平均価格は530円。苗物の数量は6万8千箱で前年比11.8%(7千箱)の増加、金額は8314万3千円で前年比7.7%(689万8千円)で、減少した。平均価格は1220円。その他花きの数量は1万8千箱で前年比58.0%(7千箱)の増加、金額は413万7千円で前年比14.2%(68万6千円)の減少となった。平均価格は230円。

③ (株)大田花き

総取扱金額は、227億7779万9千円で前年比4.4%(9億6989万8千円)の増加となった。類別にみると切花の数量は2億7874万9千本で前年比4.5%(1198万7千本)、金額は189億142万9千円で前年比4.4%(7億9330万1千円)で、共に増加した。平均価格は68円。切葉の数量は1706万9千枚で前年比9.0%(140万8千枚)、金額は5億2185万3千円で前年比11.7%(5468万3千円)で、共に増加した。平均価格は31円。切枝の数量は410万2千束で前年比7.4%(28万3千束)、金額は11億9576万4千円で前年比11.3%(1億2186万3千円)で、共に増加した。平均価格は292円。鉢花の数量は209万3千鉢で前年比3.1%(6万8千鉢)、金額は7億8111万7千円で前年比1.7%(1345万2千円)で、共に減少した。平均価格は373円。らん鉢の数量は21万5千鉢で前年比2.1%(5千鉢)の減少、金額は7億5064万9千円で前年比11.5%(7719万2千円)の増加となった。平均価格は3491円。観葉植物の数量は69万5千鉢で前年比10.8%(8万4千鉢)、金額は2億9193万6千円で前年比12.2%(4045万4千円)で、共に減少した。平均価格は420円。観賞樹の数量は13万6千鉢で前年比14.6%(2万3千鉢)、金額は9813万2千円で前年比9.7%(1057万4千円)で、共に減少した。平均価格は722円。苗物の数量は12万7千箱で前年比13.4%(1万5千箱)、金額は1億4210万6千円で前年比3.8%(517万6千円)で、共に増加した。平均価格は1123円。その他花きの数量は3万3千箱で前年比43.0%(1万箱)の増加、金額は9481万3千円で前年比15.8%(1783

万8千円)の減少となった。平均価格は2913円。

④(株)フラワーオークションジャパン

総取扱金額は、172億4130万1千円で前年比7.6%(12億1126万4千円)の増加となった。類別にみると切花の数量は9711万3千本で前年比2.5%(238万4千本)、金額は62億9732万8千円で前年比4.3%(2億6079万1千円)で、共に増加した。平均価格は65円。切葉の数量は901万6千枚で前年比2.4%(20万8千枚)、金額は2億8145万3千円で前年比3.6%(971万7千円)で、共に増加した。平均価格は31円。切枝の数量は232万5千束で前年比14.1%(28万7千束)の増加、金額は6億4369万4千円で前年比2.9%(1890万1千円)の減少となった。平均価格は277円。鉢花の数量は1006万6千鉢で前年比9.6%(88万5千円)の増加、金額は33億7120万7千円で前年比9.6%(2億9461万1千円)の増加となった。平均価格は335円。らん鉢の数量は90万1千鉢で前年比8.9%(7万4千鉢)、金額は18億2378万7千円で前年比5.8%(9990万2千円)、共に増加した。平均価格は2023円。観葉植物の数量は488万4千鉢で前年比10.7%(47万3千鉢)で、金額は29億578万4千円で前年比8.8%(2億3526万5千円)で、共に増加した。平均価格は595円。観賞樹の数量は138万6千鉢で前年比2.6%(3万5千鉢)、金額は7億4506万3千円で前年比9.3%(6339万1千円)で、共に増加した。平均価格は537円。苗物の数量は79万1千箱で前年比37.7%(21万7千箱)、金額は10億6432万6千円で前年比31.0%(2億5197万4千円)で、共に増加した。平均価格は1345円。その他花きの数量は2万1千箱で前年比57.3%(2万8千箱)の減少、金額は1億865万9千円で前年比15.4%(1451万5千円)の増加となった。平均価格は5168円。

⑤(株)東日本花き

総取扱金額は、64億9018万9千円で前年比10.7%(6億2499万4千円)の増加となった。類別にみると切花の数量は8144万1千本で前年比6.8%(515万7千本)、金額は50億8399万8千円で前年比8.8%(4億1121万円)で、共に増加した。平均価格は62円。切葉の数量は527万8千枚で前年比16.1%(73万1千枚)、金額は1億2990万5千円で前年比21.5%(2295万5千円)で、共に増加した。平均価格は25円。切枝の数量は172万5千束で前年比7.0%(11万3千束)、金額は3億4816万4千円で前年比5.3%(1744万円)で、共に増加した。平均価格は202円。鉢花の数量は135万3千鉢で前年比33.4%(33万9千鉢)、金額は4億4842万7千円で前年比31.2%(1億671万1千円)で、共に増加した。平均価格は331円。らん鉢の数量は6万9千鉢で前年比4.6%(3千鉢)、金額は1億8882万3千円で前年比19.1%(3022万1千円)で、共に増加した。平均価格は2729円。観葉植物の数量は29万8千鉢で前年比15.3%(3万9千鉢)、金額は1億6181万6千円で前年比14.0%(1984万2千円)で、共に増加した。平均価格は543円。観賞樹の数量は6万3千鉢で前年比7.5%(5千鉢)、金額は4310万円で前年比0.7%(31万2千円)で、共に減少した。平均価格は686円。苗物の数量は4万2千箱で前年比62.4%(1万6千箱)、金額は5310万円で前年比69.2%(2171万6千円)で、共に増加した。平均価格は1256円。その他花きの数量は4千箱で前年比23.0%(1千箱)、金額は3285万7千円で前年比12.7%(478万9千円)で、共に減少した。平均価格は7768円。

⑥(株)板橋花き

総取扱金額は、54億2008万8千円で前年比0.6%(3195万4千円)の減少となった。類別にみると切花の数量は8042万8千本で前年比0.3%(21万5千本)、金額は48億8419万1千円で前年比0.1%(524万6千)で、共に増加した。平均価格は61円。切葉の数量は528万8千枚で前年比1.6%(8万7千枚)、金額は1億2583万4千円で前年比0.5%(64万3千円)で、共に減少した。平均価格は24円。切枝の数量は183万1千束で前年比34.6%(47万1千束)、金額は3億1462万9千円で前年比2.1%(645万7千円)で、共に増加した。平均価格は172円。鉢花の数量は5千鉢で前年比83.4%(2万7千鉢)の減少、金額は155万円で前年比87.1%(1042万3千円)の減少となった。平均価格は290円。らん鉢の数量は9千鉢で前年比38.3%(6千鉢)、金額は5638万4千円で前年比31.3%(2570万9千円)で、共に減少した。平均価格は6017円。観葉植物の数量は388鉢で前年比96.3%(1万鉢)の減少、金額は7万3千円で前年比98.6%(518万8千円)の減少となった。平均価格は187円。観賞樹の数量は542鉢で前年比83.9%(3千鉢)、金額は50万円で前年比76.3%(160万7千円)で、共に減少した。平均価格は922円。苗物の数量は8箱で前年比99.0%(830箱)、金額は13万5千円で前年比87.1%(90万5千円)で、共に減少した。平均価格は16,828円。その他花きの数量は7千箱で前年比7.8%(520箱)、金額は3679万2千円で前年比2.3%(81万8千円)で、共に増加した。平均価格は5146円。

⑦(株)葛西花き

総取扱金額は、35億9914万7千円であった。類別にみると、切花の数量は4512万1千本で、金額は27億239万4千円。平均価格は60円。切葉の数量は391万4千枚で、金額は9955万9千円となった。平均価格は25円。切枝の数量は49万8千束で、金額は1億3255万円。平均価格は266円。鉢花の数量は64万5千鉢で、金額は2億6971万6千円となった。平均価格は418円。らん鉢の数量は4万7千鉢で、金額は1億3572万8千円。平均価格は2877円。観葉植物の数量は25万6千鉢で、金額は1億3378万5千円。平均価格は524円。観賞樹の数量は6万4千鉢で、金額は3759万7千円となった。平均価格は583円。苗物の数量は9千箱で、金額は1983万6千円。平均価格は2161円。その他花きの数量は9万7千箱で、金額は6798万2千円。平均価格は702円。

⑧(株)江戸川花き

総取扱金額は、28億636万8千円であった。類別にみると、切花の数量は1931万本で、金額は10億1926万7千円。平均価格は53円。切葉の数量は167万6千枚で、金額は3892万2千円となった。平均価格は23円。切枝の数量は49万3千束で、金額は8531万3千円。平均価格は173円。鉢花の数量は225万5千鉢で、金額は7億5948万8千円となった。平均価格は337円。らん鉢の数量は14万鉢で、金額は2億8557万4千円。平均価格は2039円。観葉植物の数量は51万3千鉢で、金額は2億6678万9千円。平均価格は520円。観賞樹の数量は22万8千鉢で、金額は1億4148万1千円となった。平均価格は620円。苗物の数量は15万2千箱で、金額は1億9543万7千円。平均価格は1288円。その他花きの数量は2千箱で、金額は1409万6千円。平均価格は6771円。

2 月別市況

1月

『切花』

取扱数量は、前月比29.1%減、前年比0.5%増であった。平均価格は、前月比2.7%安、前年比9.2%高となった。今月は、年間を通じて入荷が最も少ない時期であるが、全体的には順調であった。また、中旬の兵庫県南部地震により、入荷が心配されたが、九州・沖縄・四国方面の陸送分は、航空便で対応したことから地震による影響は殆どなく、価格も堅調の動きであった。主力品目別にみると、輪菊は12月後半から高値が続き、特に白菊は地震の影響から高騰した。小菊は、前半は安定した動きであったが、後半に入ると入荷増となり軟調市況となった。カーネーションは業務需要が活発で、堅調な動きとなった。

『鉢物』

取扱数量は、前月比29.8%減、前年比11.4%増であった。平均価格は、前月比45.2%安、前年比5.8%高となった。前半は入荷、価格も安定していたが、中旬から動きが悪くなり、特に大震災以後は自粛ムードも手伝って、洋らん類を中心に軟調市況となった。品目別にみると、ポトス、コチョウランは前半は安定した動きであったが、中旬から軟調となった。プリムラ類は、年末から品薄状態となったが、中旬から安定した入荷となり、価格面も落ち着きを取り戻した。

2月

『切花』

取扱数量は、前月比13.0%増、前年比6.9%増であった。平均価格は、前月比8.5%安、前年比6.6%高となった。従来2月は、一年の中で全く動きのない月として定着していたが、ここ数年はバレンタインデー、桃の節句、卒業式等を控え、春の花を中心に活気づいてきた。また、前年の猛暑の影響で球根養成が悪く出遅れていたが、2月に入って各産地も遅れを取り戻しつつあり、入荷は順調であった。主力品目別にみると、輪菊は、白菊を中心に高値の動きで、小菊は、入荷増からやや安値の動きとなった。カーネーションは、中値安定で、チューリップは、新潟を中心に入荷が順調で市況も安定していた。

『鉢物』

取扱数量は、前月比14.8%増、前年比18.0%増であった。平均価格は、前月比16.6%安、前年比2.1%安となった。入荷は順調だったが、価格面では1月中旬の大震災による自粛ムードも手伝って、2月後半からやや盛り返したものの、全般的には低迷市況となった。主力品目別にみると、ポトスはヘゴ鉢は堅調となったものの、吊り鉢は軟調市況となった。コチョウランは、単品、寄せ木とも苦戦し、セイネリアは、昨年的高温障害の遅れから入荷増となり価格は低迷した。

3月

『切花』

取扱数量は、前月比71.3%増、前年比15.1%増であった。平均価格は、前月比6.2%安、前年比9.0%安となった。3月

は春彼岸、卒業式、謝恩会等のイベント需要があり、荷動きは活発であったが、価格的には彼岸以降安値相場となった。主力品目別では、この時期引き合いの強い菊類は、沖縄方面の気温低下による出荷の遅れのため前半強保合い、後半軟調相場で推移した。洋花については、昨年の干ばつの影響で不作となり強相場となった。カーネーションでは、彼岸までは堅調、以後月末より低迷した。フリージアは、彼岸まで安定市況であったが、彼岸明け後軟調市況となった。

『鉢物』

取扱数量は、前月比35.1%増、前年比6.6%減であった。平均価格は、前月比2.4%高、前年比0.2%安となった。鉢花、苗物は、全体に強含みで始まったが、不安定な天候続きと悪いニュースの影響で市況が冷え込み、中旬は一時全体に安くなるが、観葉物の動きは日を増す毎に上向いた。主力品目別にみると、コチョウランは単品、寄せとも値幅のある動きをした。ポトスのリース向けは堅調、吊り物はやや軟調の市況となった。あじさいは出荷量が多く、大鉢と小鉢との値段差が品種によってあった。

4月

『切花』

取扱数量は、前月比37.3%減、前年比7.7%減であった。平均価格は、前月比3.3%高、前年比6.8%高となった。4月は入学式シーズンや日柄のよい日のブライダル等があり、洋花類の動きが活発であったが、後半のゆるみが大きく、一般消費も芳しくなかった。全般的には各品目とも、入荷量が減少し単品的には強含みの市況となった。その他切り枝、切り葉等は安定した動きとなった。主力品目別にみると小菊は沖縄産のものが出荷減で品薄高となった。宿根かすみ草では前半は堅調、後半は入荷遅れの倍増して弱含みの市況となった。

『鉢物』

取扱数量は、前月比25.7%増、前年比2.2%増となった。平均価格は、前月比7.1%高、前年比0.7%高となった。鉢花は全般にわたり天候不順の影響を受けて不安定な市況だったが、観葉植物は品薄の状態が続き、大鉢を除いては好市況で終わった。洋らん類は各等級とも横ばいから下押しの展開となった。観賞樹、苗物等においては週末の悪天候と低温の影響により前年比は著しく落ちた。主力品目別にみるとポトスはヘゴ鉢、吊り鉢とも堅調。インパチェンスでは良品の入荷増で軟調の市況となった。

5月

『切花』

取扱数量は、前月比28.8%増、前年比21.6%増であった。平均価格は、前月比6.3%高、前年比13.6%高となった。今年の“母の日”は第3日曜日としては最も遅い日となったため、前半は好影響を受け洋花類が活発な取引となった。例年であると“母の日”以降弱含みの市況となるが、後半も全体的には中値相場で安定した動きをみせた。主力品目別では輪菊は入荷が少なく、高中値相場だった。小菊は沖縄産入荷減で茨城・静岡産が台頭し、中値相場の動き。カーネーション、バラは近年にない高相場で推移した。スターチス類は、各地とも品質維持が良いのと、“母の日”需要も

手伝って、単価的には昨年を上回る安定相場となった。

『鉢物』

取扱数量は、前月比9.6%増、前年比29.3%増であった。平均価格は、前月比8.4%高、前年比6.8%高となった。ゴールデンウィークに続く母の日需要で、鉢花・洋らん類とも安定した市況だった。観葉植物は先月の好市況と比較するとやや一段落し、苗物は良品の商品が底堅い市況だった。主力品目別ではコチョウランが5月全般にわたり好市況で品薄状態。ペゴニア類は前半堅調で後半安定した。あじさいは安定入荷で、特にハイドランジアは例年に比べ高値で取引された。

6月

『切花』

取扱数量は、前月比17.9%減、前年比13.0%増であった。平均価格は、前月比9.0%安、前年比8.9%高となった。6月は全般に天候が悪く、低温と日照不足のため、葉障害等の品質落ちの物が多く、また出荷状況も例年と比較して通常時期より早く出荷されたり2週間以上も遅れたりと不安定であった。市況的にはジュンブライド需要もあり中旬まで好相場だったが、下旬は低迷、安値の展開となった。主力品目別では、輪菊・小菊が白系中心に供給過多で安値。カーネーションは寒地出荷が遅れ、品薄となったが安定相場で推移した。宿根かすみ草は暖地・寒地とも出荷が重なり相場を下げた。

『鉢物』

取扱数量は、前月比25.9%減、前年比26.7%増であった。平均価格は、前月比8.0%高、前年比5.6%高となった。雨と低温、日照不足から粗悪で発色の悪い物、開花の遅い物など出回り、品種によって幅のある動きを見せた。主力品目別では、ポトスは安定供給だが弱含み。洋らん類はコチョウラン、デンファレとも開花遅延のため、品薄状態で高値展開。ゼラニウムは前半で出荷終了、落花も目立ち、人気今一つの低迷市況。あじさいは、まさに紫陽花向きの天候になり例年ない好市況となった。

7月

『切花』

取扱数量は、前月比13.4%増、前年比17.2%増であった。平均価格は、前月比8.2%安、前年比1.8%安となった。7月は梅雨明けからの気温上昇の影響から出荷状況は前進きみとなり、りんどう、トルコキキョウ等、特にオリエンタル系百合を初めとする球根類が出荷増となり底値。また、新盆でも前年と比較して荷動きが少なく、間際になっての引き合いがあったが、総じて大きな需要のある展開は見られず軟調市況となった。主力品目別では、輪菊・小菊がお盆入り前半入荷遅れで価格高。カーネーションは中値安定相場。バラ類は高温のため開花したものが多く、品質落ちで安定相場が続いた。

『鉢物』

取扱数量は前月比17.9%減、前年比35.9%増であった。平均価格は、前月比2.8%安、前年比変わらずとなった。観葉植物、鉢花ともギフト向け商品の需要で、中旬まで安定入荷の堅調な

取引を見せ好市況だったが、後半はらん鉢を除いて全面安となってしまった。主力品目別では、ポトスが安定供給保合い市況。洋らん類はギフトの中心でやや品薄ぎみの強含み。ペゴニアはまちまち。インパチェンス、日々草は梅雨時期の低温と日照不足のため良品少なく不安定な市況となった。

8月

『切花』

取扱数量は、前月比9.4%減、前年比16.0%増であった。平均価格は、前月比10.7%高、前年比8.8%安となった。8月は記録的な猛暑の影響を受け、東北、北海道方面の産地物は花シミや病害等がみられ、東京以西については短幹や早咲き等があり、単価的にまちまちとなった。市況も旧盆向けのもが不足の傾向にあり、引き合いがあったが、30℃以上の真夏日が40日以上もあって、買い気は振るわなかった。主力品目別では、輪菊・小菊の特に白色系が前半入荷遅れで高値安定。カーネーションは旧盆以降入荷増のため弱保合。トルコキキョウでは長野、東北方面の潤沢な入荷で単価保合となった。

『鉢物』

取扱数量は、前月比33.9%減、前年比38.5%増であった。平均価格は、前月比7.4%安、前年比1.2%安となった。前半の旧盆までは小じっかりした相場展開だったが、高温の影響をもろに受けた苗物、鉢花は初秋物まで低迷した。洋らん類、観葉物は、やや価格を下げ安定した市況だった。主力品目別では、ポトスがヘゴ鉢で安定、つり鉢は低調。デンファレは後半より保合。ハイビスカスは黄色系のみ好市況。菊類は埼玉中心の入荷で全般に弱保合、良品のものは安定した市況となった。

9月

『切花』

取扱数量は前月比26.7%増、前年比18.4%増であった。平均価格は、前月比8.1%高、前年比2.9%安となった。9月は夏の高温小雨の影響を受け、品質落ちや入荷減のものが見られたが、相場の足を引っ張るまでは至らず、また敬老の日と彼岸の引き合いもあって、単価的には、ほぼ例年並となった。主力品目別では、輪菊・小菊は、もの日に対応できるだけの順調な入荷があり中値安定。カーネーションは、彼岸前半の高冷地に寒い日が2~3日続いたため、長野産が入荷減になり堅調市況。りんどう、けいとうについては、各産地とも安定した入荷で、単価的にも安定していた。

『鉢物』

取扱数量は、前月比61.3%増、前年比36.5%増であった。平均価格は、前月比3.4%高、前年比2.7%高となった。高温の影響で出荷遅れのものもあったが、鉢花・観葉は全般に安定していた。らん鉢はシンビジュームを除き安定入荷で、市況的にも安定。苗物の良品物は好調市況だった。主力品目別では、ポトスがヘゴ鉢で好調、吊り鉢は低調で単価落ち。コチョウランは、品薄気味の堅調相場。シャコバサボテンは安定市況。りんどう、菊類は下旬から埼玉産が晩生に切り替わり、不安定な市況となった。

10月

『切花』

取扱数量は、前月比21.7%減、前年比19.3%増であった。平均価格は、前月比6.0%安、前年比12.5%安となった。10月は高温のため前進出荷した品目が多く、軟調となった。洋花類は秋のブライダル需要がありながら単価は上がらず、また小売店でも暖かさのため花持ちが悪く、荷動きを鈍らす結果となった。主力品目別では、輪菊は前半入荷不足で高騰したが全体的には軟調。小菊は、スプレーとともに潤沢な入荷をみせたが、品質にばらつきがあってまちまちとなった。カーネーションは、冷地物が品薄により軟調、暖地物が下位等級多く軟調。ガーベラは品薄高値から持合で推移した。

『鉢物』

取扱数量は、前月比25.3%増、前年比51.2%増であった。平均価格は、前月比5.3%安、前年比9.7%安となった。上旬は週末毎の悪天候で小売が不調となったため、総じて相場は軟調となった。中旬以降品薄気味で相場の戻しが見られたが、小幅で推移した。主力品目別では、ポトスはヘゴ鉢が軟調、釣り鉢は6寸以下の鉢が人気薄で軟調。シクラメンは北海道産が始め、前半軟調だったが下旬より堅調。シャコバサボテンは前半高温のため花持ちに難があって軟調、下旬は品薄となり堅調。

11月

『切花』

取扱数量は、前月比13.8%減、前年比11.2%増であった。平均価格は、前月比22.2%高、前年比13.2%高となった。10月の高温による前進出荷のしわ寄せで、中旬以降品薄となり、全体的に前年を上回る高値推移の相場となった。特に菊類については引き合いが強く、洋花・球根物については、ばらつきがあったが、概ね堅調な取引となった。主力品目別では、輪菊は作付け減のため入荷不足で堅調。小菊は主要産地の出荷が時期をずらし高値相場。カーネーションは、スプレーを中心に品薄高値。ガーベラは色の豊富さからブライダル需要があり、品薄ながらも安定。フリージアは良品少なめの出荷増だったが、相場は安定した。

『鉢物』

取扱数量は、前月比0.1%増、前年比31.2%増であった。平均価格は、前月比34.6%高、前年比5.6%安となった。前半は高温のため関東地方の出荷が品薄となり、後半に大幅増の入荷となったが、低価格のものに人気が集まるなど荷動きは少なかった。主力品目別では、ポトスは寒さに強い品目だがヘゴ鉢は安定、吊り鉢はやや軟調。シクラメンは関東物が出遅れたが、引き合い弱く、後半より安価のものが安定。ポインセチアは中旬以降入荷減の品薄高。

12月

『切花』

取扱数量は、前月比44.6%増、前年比15.4%増であった。平均価格は、前月比10.4%安、前年比5.5%安となった。12月は冷え込みが厳しかった影響で前半荷揃えに遅れが見られた。

松・千両は品薄のため高値となったが、連休がらみでクリスマス需要の引き合いは弱く、後半潤沢な入荷となっても小売の買い気控えがあって小甘い市況となった。主力品目別では、輪菊は中旬から入荷増となり全体的に弱保合。小菊は沖縄産中心の中値安定相場。カーネーションは、スプレーを中心に品薄高値。チューリップは品薄だったが年末には順調に推移した。水仙は夏の高温と水不足の影響をうけ品薄高値の相場となった。

『鉢物』

取扱数量は、前月比2.4%減、前年比19.3%増であった。平均価格は、前月比29.4%高、前年比10.0%安となった。夏の猛暑の影響で出荷時期のばらつきがあったのと、需要が低価格商品に集中した影響から全般的に相場を下げの傾向が見られた。主力品目別では、ポトスはミニ観葉ものが好調、ヘゴ鉢は安定。シンビジュームは上級品を除いて好調。シクラメン・プリムラは良品少なく単価落ちの低迷。葉ばたんは、生産量減少の影響もあり、鉢植え、ポットとも堅調相場となった。